

株式会社高島屋

SDGsの考えを理解し、取り組みを着実に進める

事業活動を通じて社会課題解決への貢献と事業成長の両立を目指す高島屋グループは、「エネルギー」「環境」「食品ロス」「商品」「ユニバーサル化」「働き方」「従業員意識啓発」という7つの領域(図参照)において、取り組みを検討・推進している。具体的には、廃棄プラスチックゼロに向けたレジ袋・ストローの削減や食品ロス削減に向けた販売方法の見直し、ユニバーサル商品やリサイクルの拡充、店内サインや接客におけるユニバーサル対応の強化などがある。

■ 持続的成長に向けた取組み

グループ全社でSDGsの考えを理解し

環境・貧困など社会課題を強く意識して、企業の持続的成長を実現



持続的成長に向けて取り組む7つの領域

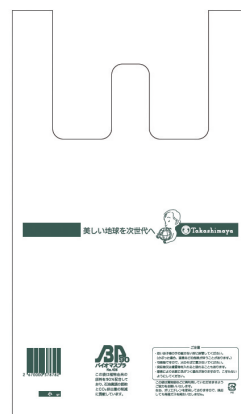
重点課題のひとつである「排出CO2ゼロ」については、事業活動で使用する電力を2050年までに100%再生可能エネルギーにすることや、2030年までに直接管理車両を100%ゼロエミッション・EV化(電気自動車に置き換え)することにも取り組んでいる。2019年9月には、それらを進めるために「RE100」と「EV100」という2つの国際イニシアティブに参加した。同社グループは、脱炭素社会の実現を目指す「気候変動イニシアティブ」や、脱炭素社会への移行をビジネス視点で捉える日本独自の企業グループ「日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)」などにも参加していることから、多くの企業・団体との接点が増え、ネットワークが広がったと感じているという。

高島屋グループがSDGsの取り組みにおいて重視しているのは、SDGsの考え方を強く意識し行動することである。高島屋グループで働くすべての人が、SDGsの本質を正しく理解し、ステークホルダーの方々の理解・協力のもと、

持続可能な社会の実現に貢献することを目指している。一人ひとりが何をすべきかをより深く考え、積極的に取り組むことでSDGsの目標達成に貢献していくために、全社で社会課題を正しく理解するプログラムや課題解決に向けた議論を進めている。

その取り組みのひとつが、2020年4月1日から実施するレジ袋および紙製食料品用手提袋の素材切り替えと有料化である。環境負荷削減に向けて、主に食料品売場で提供しているプラスチック製のレジ袋は植物由来の原料を90%配合したバイオマスプラスチック製に、紙製食料品用手提袋をFSC®認証材に切り替えるとともに、いずれも有料での提供を始める。また、エコバッグの利用や手持ちの買物袋へのおまとめを呼びかける取り組みを全店で強化して、環境に配慮したライフスタイル提案を一層推進していく。

これからも社会課題を強く意識し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、お客様をはじめとするステークホルダーと、一つひとつ着実に進めていきたい考えだ。



※新しいレジ袋のデザイン

色はグリーンを使い、「美しい地球を次世代へ」のメッセージとマスコットキャラクター「ローズちゃん」が地球をやさしく包み込む姿をデザインした。